

2014年4月25日 イースター礼拝

説教者 日本キリスト教団石巻山城町教会 関川 祐一郎牧師

聖書 ヨハネによる福音書 20章 11-18節

今日は榴ヶ岡高校の皆さんと共にイースター礼拝を捧げられる喜びを感謝します。イースターはキリストの復活を祝うお祭りです。キリストの誕生日であるクリスマスと並んで、教会にとってとても重要な日です。イエス・キリストは私たち人間の罪を赦すために自ら十字架刑の死を引き受けてくださいました。しかし、聖書は主イエスが十字架の死で終わらなかったということを伝えています。それがイエス・キリストの復活です。主イエスの復活の出来事は私たちがこの世の死で終わらないということを示すものです。このことは、私たちにとって大きな希望です。

今日共に読みました聖書の御言葉は、主イエスが復活されたときの様子について描かれています。ヨハネによる福音書によると、死者の中から復活された主イエスに最初に出会ったのはマグダラのマリアという女性です。このマリアは、主イエスの母マリアとは別の女性です。彼女はかつて七つの霊に取りつかれており、それを主イエスによって追い出していただきました。マリアは主イエスとの出会いによって救われ、その人生が180度変えられたのです。

ですから主イエスに信頼を寄せる彼女にとって、主イエスの死は絶望と失望そのものでした。抛り所としていたお方が突然目の前からいなくなってしまったのです。この先一体どのように生きていったらよいのか、この闇が一生続くのではないか、それほどの絶望が彼女を襲いました。この悲しみを抱えながらの今日の聖書の場面です。マリアは週の初めの日、日曜の朝早く、まだ日が昇らないうちに主イエスが葬られている墓に赴きました。しかしそこでとんでもないことが起きていたのです。墓をふさいでいた石がとりのけられ、墓の中を見るとそこはからっぽでした。主イエスの遺体は誰かに盗まれてしまったのでしょうか。マリアはどうすることもできず、ただ墓の外で茫然と泣くしかありませんでした。マリアは泣きながら、ふと後ろを振り向きしました。するとそこには男の人が立っていました。それは死から甦られた主イエスでした。主イエスはマリアに尋ねました。「婦人よ、なぜ泣いているのか、誰を捜しているのか」。しかし、マリアはその人が主イエスとは気がつきません。それどころか主イエスのことを園丁だと勘違いしてしまいます。そして主イエスに向かって尋ねます。

「あなたがあのお方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。」

マリアがこのように尋ねると、主イエスはすぐさま「マリア」と呼びかけました。マリアは声の方向に再度振り向きしました。するとそのとき、マリアの目は開け、自分の目の前に主イエスをはっきりと見たのです。それは確かに自分を悪霊から救いだして下さり、いつも共にいてくださった主イエスでした。マリアは思わず「ラボニ」「先生」と呼びかけました。最も会いたかった人にマリアは会うことができたのです。

復活の主イエスとの出会いは、マリアにとってもう駄目だと思ったところに差しこんだ光でありました。驚きと喜びの中にいるマリアに対して主イエスは語ります。「わたしにすがりつくのはよしなさい」この主イエスの言葉は、一見マリアを突き離すような言葉です。ここで主イエスが告げようとしておられることは何なのでしょう。この言葉の背後にはもはや主イエスにすがりつく必要はないというメッセージがこめられています。これからはたとえ目に見えなくとも直接触れることはできなくとも、主イエスが永遠にマリアと共にいてくださるのです。このとき、「なぜ泣いているのか」という主イエスの言葉が響いて来ます。この言葉の背後にあるメッセージは何か。それは「も

う泣かなくともよい。私が永遠にあなたと共にいる」ということです。

これは私たちにとっても同じです。2000 年以上前に復活された主イエスのことを私たちは今直接見ることはできませんし、触れることもできません。しかし、マグダラのマリアに現れた主イエスは、時と空間を超えて私たち一人一人と共にいてくださいます。私たちも人生の歩みの中でも今日のマリアのように、何かにつまずくこともあり、もう駄目かもしれないと思うことがあるでしょう。しかし、そのときマリアに現れた復活の主イエスが共にいて「なぜ泣いているのか、もう泣かなくても良い」と声をかけてくださっていることを心に留めていたいと思います。

聖書：ヨハネによる福音書 20 章 11-18 節

マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行っ、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」マグダラのマリアは弟子たちのところへ行っ、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。